

中学校 特別支援学級 生活単元 学習指導案

松山市立内宮中学校

教諭 野村 臣哉

1 単元名 「バザー活動を通して誰かの役に立てる人になろう」

2 単元の目標

- 商品の制作工程を正しく理解し、工夫して作業を進めることができる。
(知識・技能)
- 商品を準備・販売するなかでお金の計算を正しくことができ、支出と収入、利益について理解することができる。
(知識・技能)
- 効率よく制作・販売活動を進めていくための方法や手段について考え、級友と意見を出し合って活動に取り組もうとする。
(思考力・判断力・表現力等)
- 制作・販売活動を通してよりよい社会の実現に向けて自分たちに何ができるかを考え、実現に向けて取り組もうとする。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、文化祭で実施されるバザーでの販売に向けて、制作・販売するものの選択、制作に必要な材料の調達、前日までの準備と当日の販売を誰が何を担当するかの役割分担、活動に伴って変動するお金の計算・管理など、社会で生活するうえで必要になってくる諸能力の向上を図ることをねらいとしている。また、どのような商品を買ってくれるお客様は望んでいるかを考えることを通して、単に価格が安いということだけではなく、安心して使えるものやずっと使い続けることができるもの、環境にやさしいものなど、現代の社会で大切にされているものづくりの視点に気付かせ、持続可能な社会の実現に向けてさまざまな立場の人々が努力していることを理解し、社会の一員として自分たちもできることに取り組んでいこうとする姿を目指したい。

(2) 生徒観

本校特別支援学級には、知的障がい特別支援学級に4名、自閉症・情緒障がい特別支援学級に5名の生徒が在籍している。生活経験や学習面における習熟度は様々であるが、ほとんどの生徒が、作業的、体験的な活動に意欲的で、本単元の活動にも意欲的に取り組むことができると考える。しかし、生徒の活動の取り組み方や得意とする内容には個人差が大きく、生徒の実態に応じて活動内容を吟味し、工夫する必要があると考える。生徒の中には金銭感覚に乏しい生徒が見られ、買い物学習や販売学習を通してお金の大切さやありがたさ、適切な使い方等について理解させたい。また、多くの生徒は社会情勢などに関心が薄いので、物品制作・販売という生徒にとって身近な活動を通し

て現代社会が抱える諸問題について考えを深めることが望ましいと考える。

(3) 指導観

本単元に取り組むにあたって、生徒の多くは販売活動による利益に意識が向いていたので、導入段階で「自分たちの活動が誰かの役に立つ」ことを目標に今回のバザーを行うように声掛けをして目的の確認を行うようにした。制作・販売の役割分担の際には生徒の得意なこと、興味のあることに応じて生徒主体で決めるようにしたが、一人の生徒だけに任せきりになることのないように協力して行えるように留意した。バザー当日までの準備活動の中には、教科で学習した内容を活かして取り組むことができるように内容を工夫し、教科横断的な学習が行えるように留意した。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

責任性…商品の販売活動のなかで自分たちが SDG s につながる行動をできる。

有限性…長く何度でも使い続ける商品の制作を行う。

・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力 (システムズ・シンキング)

商品の購入の検討の視点には、価格だけではなく、必要な量や使用用途、製造までの過程や生産者の思いなどさまざまな視点がある。

批判的に考える力 (クリティカル・シンキング)

商品の販売にあたって自分たちが SDG s につながる行動をとることができているか批判的に分析する。

進んで参加する態度

自分が生産・消費をする際に、地球規模の課題にまで視点を広げることで、持続可能な社会を目指す態度を育成する。

・ 本学習を通して育てたい ESD の価値観

幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

自分が制作した商品を販売しお客様に喜んでもらうことに充実感を感じ、持続可能な社会を目指すことが自分の生活をよりよくすることにつながる。

・ 達成が期待される SDG s

8 働きがいも経済成長も

12 つくる責任つかう責任

14 海の豊かさを守ろう

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①商品の制作工程を正しく理解し、工夫して作業を進めることができる。</p> <p>②商品を準備・販売するなかでお金の計算を正しくすることができ、支出と収入、利益について理解することができる。</p>	<p>①どんな商品をどれだけ作り販売するかについて、予算をもとに考えることができる。</p>	<p>①活動を通してお客様が喜んでくれるようにするにはどうすればよいか考え、意欲的に実践しようとしている。</p> <p>②どんな商品を生産・消費することがよりよい社会の実現につながるかについて考え、自分にできることを模索しようとしている。</p>

5 単元の指導計画（全 18 時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>○バザーでどんな商品を販売するか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カップケーキを作っておいしいと言ってもらいたい ・実用性のあるものを作ろう <p>準備と当日運営の役割分担を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・制作に必要な経費の予算をもとに考えさせる。 ・購入する人の視点になってどんな商品なら買いたいと思うか考えさせる。 	<p>△イ①</p> <p>△ウ①</p>
2	<p>○松山市クリーンセンターに見学に行き、施設の方の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松山市は全国的に見てもゴミの排出量が少ない都市として有名なんだな ・松山市のリサイクル率は全国平均よりも低いんだな ・ゴミが適切に処理されないとどんな問題が生じるのかな？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の見学や施設の方の話を通して、ごみ処理やリサイクルの話は松山市だけでなく、世界規模で取り組むべき課題であること、放置すればさまざまな問題が生じることに気付かせる。 	<p>△ウ②</p>
3	<p>○バザーの販売活動を通して、松山市のごみ問題やリサイクル率の向上に貢献するための方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何度でも使える商品を作ろう ・もう使わなくなったものを再利用して商品を作ろう ・活動に伴うゴミの量をなるべく減らす ・蜜蝋ラップはどうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを利用するなどして、自分たちが作れるエコ商品を考えさせる。 	<p>△ウ②</p>

4	<p>○制作工程の確認と材料の調達を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この材料は近くのスーパーでは〇〇円で販売されていたよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の調達に行く前に、あらかじめ購入する量を確認し、支出を予想しておく。 	△ア②
5	○制作活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・買う人が欲しいと思ってくれるように、工夫しながら作るように呼び掛け支援する。 	△ア① △ウ①
6	○制作した商品の価格を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・価格は材料の調達にかかった費用や買う人の気持ちなどを考えて設定するように伝える。 	△ア② △イ① △ウ①
7	<p>○バザー準備、販売を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客様が何を販売しているのか分かるように商品ポップで説明しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・2、3年生には職場体験で学んだ接客の仕方や姿勢などを活かすように伝える。 	ア② ウ①
8	<p>○活動の振り返り、反省をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまり売れなかったエコ商品は、使い方や環境への効果などのアピールがたりなかったのではないかな？ ・カップケーキの包装を紙でなく、蜜蝋ラップで包んで販売したらよかった ・レジ袋を渡したが、プラスチックの袋を使うべきではなかった ・布の切れ端などを使ってエコ商品を作れたことがよかった ・事前に必要量などを予想して材料を買ったので、カップケーキを作る際に余りがなかったことがよかった <p>自分がこれから商品を購入したり、消費する際にどのようなことを大事にしたいと思うか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安さだけでなく、生産者の思いや環境に配慮された商品を購入したい ・必要なものを必要な量だけ買って、できるだけ大切に長く使いたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品の販売活動での自分たちの行動は、ごみの排出量の削減につながり、リサイクル率の向上につながるものだったか、活動工程ごとに振り返らせる。 ・学習を通して、私たちは毎日商品の購入と消費を繰り返していることに気付かせ、どのようなものを購入しどのように消費するかを一人一人が考えることがよりよい社会の実現に大きな影響を与えることを伝える。 	ア② ウ① ウ②